

第28回（令和5年度第2回）
セーフコミュニティ 防犯対策委員会
《久留米市セーフコミュニティ現地審査》

《会 議 次 第》

日時：令和5年8月1日(火) 10:30～

場所：久留米シティプラザ 大会議室

1. 開会

2. プレゼンテーション

3. 質疑応答

4. 閉会



セーフコミュニティ防犯対策委員会 委員名簿

(任期：令和7年7月31日まで)

	団体等名称	委員名	役職
1	久留米市老人クラブ連合会	荒川 良子	女性部会員
2	◎ 久留米市防犯協会連合会	猪飼 廣幸	副会長
3	うきは防犯協会田主丸支部	柳瀬 一友	副会長（田主丸支部長）
4	久留米市校区暴力追放推進協議会連絡会議	渡邊 浩二	会長
5	久留米市校区まちづくり連絡協議会	大坪 平	幹事
6	久留米男女共同参画推進ネットワーク	堀田 富子	会長
7	久留米市中学校長会	古賀 一英	筑邦西中学校校長
8	久留米市小学校長会	九重 真由美	草野小学校校長
9	久留米市小・中学校PTA連合協議会	長郷 国久	
10	久留米市校区青少年育成協議会連絡会議	江藤 孝子	理事
11	久留米商工会議所女性会	江崎 慶子	参与
12	文化街さくら会	古賀 三貴	会長
13	久留米警察署	松岡 誠倫	生活安全課長
14	(一社) 久留米銀行協会	首藤 有一	常務理事
15	久留米市子ども未来部青少年育成課	原 稔治	課長
16	久留米市都市建設部道路整備課	濱浦 隆之	課長
17	久留米市教育部学校教育課	古賀 友理子	学務主幹
18	久留米市協働推進部安全安心推進課	柳 秀昭	課長
19	久留米市協働推進部男女平等推進センター	酒井 香	所長
20	久留米市協働推進部消費生活センター	吉村 栄作	所長

事務局：協働推進部安全安心推進課

プロフィール

審査員

◆ジョンイ・ペ (Jeongyee BAE) ◆

- 博士(看護学)
- インジェ大学看護教授(2021 年より学部長)
- 内務・安全省、国防省、韓国消防庁、韓国防災研究センター等
政策アドバイザー
- 釜山市および金海市のセーフコミュニティ研究センター ディレクター
- 国際セーフコミュニティ・セーフスクール公認認証審査員



ソウル大学看護学部にて修士号を修得後、梨花女子大学にて博士号を修得(看護学)。2005 年には、米国ワシントン大学にて客員研究員として経験を積む。

セーフコミュニティ及び安全・安心に関する分野では豊富な経験を有しており、国レベルでは、上記以外にも様々な省庁において安全に関する政策アドバイザーを務める。また、地域においては、インジェ大学国際セーフコミュニティ研究機構のセンター、釜山市および金海市のセーフコミュニティ研究センターのディレクターとして 7 自治体(うち 4 自治体は広域市)の支援を行う。

国際セーフコミュニティおよび学校版 SC であるインターナショナルセーフスクールの審査員として各国の審査においても豊富な経験を有しており、これまで主審査員及び副審査員として日本をはじめ 20 以上の自治体の審査を担当しており、久留米市においては前回の審査も担当している。

◆レザ・モハマディ (Reza MOHAMMADI) ◆

- 国際セーフコミュニティ認証センター センター長
- ストックホルム郡ヘルスセンター長
- カロリンスカ研究所(医科大学) 研究員
- 国際セーフコミュニティ公認認証審査員



イランにおいてイラン CDC(疾病予防管理センター)のセンター長を務めたのち、スウェーデンのカロリンスカ研究所社会医学部公衆衛生学科において研究を始める(現在も研究員として在籍)。

2004 年から 2015 年の間、WHO 地域安全向上のための協働センターの上席アドバイザーを務める。2015 年からは国際セーフコミュニティ認証センターの副センター長、2023 年からセンター長を務める。

1996 年から 25 年以上にわたってセーフコミュニティの分野にかかわっており、これまで 40 以上の認証審査を担当してきた。

◆グールドブランド・シェーンボリ (Guldbrand SKJÖNBERG) ◆

○国際セーフコミュニティ認証センター

理事・ジェネラルマネジャー

○国際セーフコミュニティ公認認証審査員

1970年代に北欧現代計画研究所に籍を置き、大学院で現代都市計画プランナーとなった後、米国タフツ大学において公衆衛生を学ぶ。その後、スウェーデンに戻りウプサラ大学においてリーダーシップ高等教育を受ける。

卒業後は、公衆衛生職員として行政での経験を重ねた後、国の保健福祉委員会において実績を積んだ。さらに、基礎自治体であるナッカでの20年を経て環境省に移った。その後、コミュニケーション省、総務省などで環境分野の専門家として実績を積んだ。

セーフコミュニティに関しては、草創期から制度の立ち上げ、普及にかかわるとともに、コミュニティにおける活動の支援にかかわってきた。

また、審査員として1989年から今日まで、ヨーロッパ、南米、アジア(日本含む)、オセアニアのコミュニティの審査を担当している。



オブザーバー

◆マイケル・ウィルソン (Michael WILSON) ◆

○ハイデルベルグ世界健康研究所(ドイツ)

傷害疫学ユニット長

○ICT 大学 公衆衛生学部准教授(カメルーン)

○トゥルク大学医学部(傷害疫学)准教授(フィンランド)

○国際セーフコミュニティ公認認証審査員

アメリカやスウェーデンの大学で公衆衛生の教育を受けたのち、これらの国々に加え、南米(コロンビア)やアフリカ(タンザニア)、カナダにおいて研究者としての実績を重ねる。現在は、フィンランドのトゥールー大学大学院に籍をおき、非常勤教授として外傷予防に関する研究を進める。

その一方で、実践者としても活発に活動を展開しており、タンザニア外傷予防及びコミュニティ安全向上センターのディレクター、PeerCorps Centre for Injury Prevention and Community Safety (CIPCS) の共同設立者、タンザニア デジタルライブラリー イニシアチブの設立者及び技術的リーダーとして地域レベルでの安全の向上に取り組んでいる。

また、セーフコミュニティの審査員として欧州・アジアをはじめ各国の審査を担当してきた。



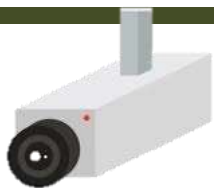
コーディネーター

◆ 白石 陽子 ◆

- 博士(政策科学)
- 一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構 代表理事
- アジア地域セーフコミュニティ支援センター連合 事務局長
- セーフコミュニティ公認認証審査員
- 立命館大学衣笠総合研究機構 研究員
- 韓国亜州(アジョー)大学 医学部 客員教授
- 韓国仁済大学(インジェ)大学 顧問教授



立命館大学大学院政策科学研究科博士課程在学中に「セーフコミュニティ(SC)」に出会ったことをきっかけに、セーフコミュニティの発祥地であるスウェーデンのカロリンスカ研究所(医科大学)でセーフコミュニティを学ぶ。2008年にセーフコミュニティに関する研究により博士号(政策科学)を授与され、立命館大学の研究員としてセーフコミュニティの研究を進めた後、京都大学大学院医学研究科においてセーフコミュニティの研究を進める。2011年にセーフコミュニティ支援センターとして認証され、現在はセーフコミュニティ推進機構代表理事としてセーフコミュニティ活動の支援と研究に専念している。また、同年12月には、「インターナショナルセーフスクール」の認証センターとしても認証された。これまで、国内17自治体のSC活動と30の保育所・小学校・中学校を支援するとともに、セーフコミュニティ、セーフスクールの研究を続けている。また、公認認証審査員として、アジアを中心にセーフコミュニティ及びセーフスクール活動の支援及び認証審査を行っている。



久留米市セーフコミュニティ 防犯対策委員会



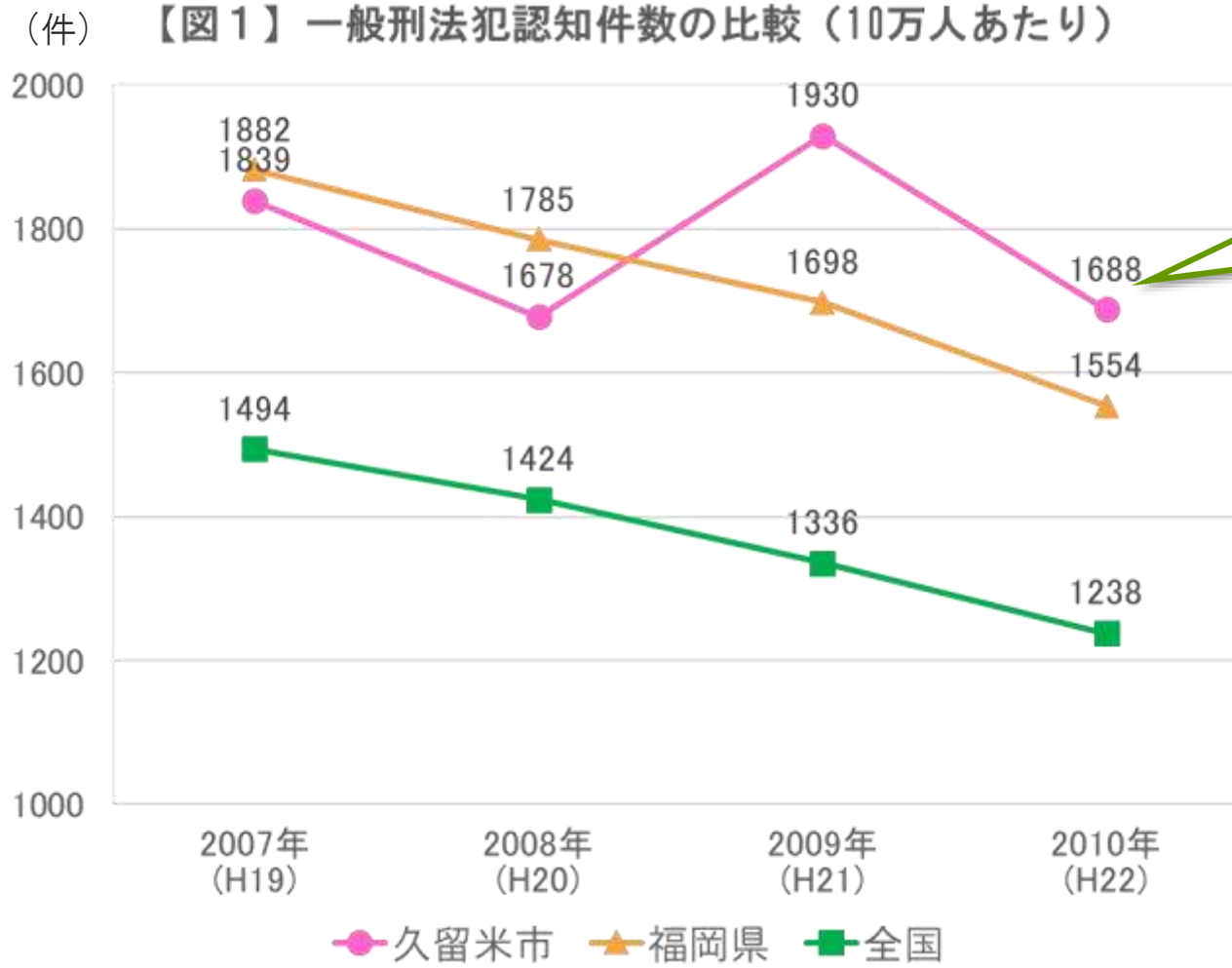
発表日 2023年8月1日
発表者 防犯対策委員会委員長 猪飼 廣幸
所 属 久留米市防犯協会連合会

1-1.防犯対策委員会の設置の背景

※1

★客観的データ

＜2011年取り組み開始時＞



当時
長期的には減少傾向にあるものの、
2009年は認知件数が増加
国や県と比べ、高い水準

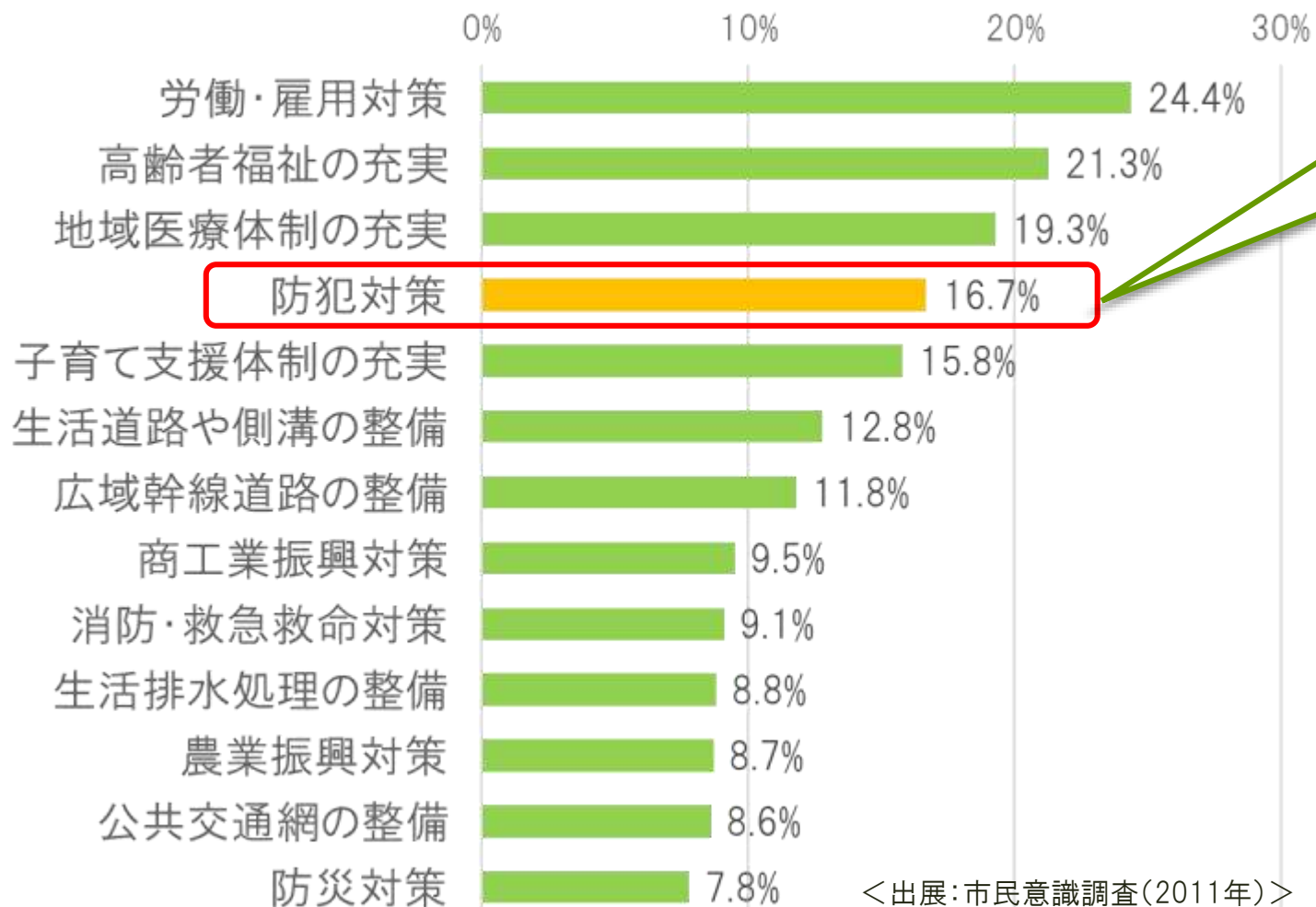
犯罪を減らすため
取り組みの強化が必要

**セーフコミュニティで
犯罪の予防を！**

＜出展：警察統計＞

1-2.防犯対策委員会の設置の背景

【図2】行政への要望で特に力を入れてほしいもの



★主観的データ

<2011年取り組み開始時>

当時
「**防犯対策に力を入れてほしい**」
行政施策33項目のうち、**第4位**

市民の要望意識は高く、
犯罪を不安に感じている！

**犯罪の予防・防犯力の向上で
市民の安心感が高まる！**

**2012年(H24)3月
防犯対策委員会設置**

2.防犯対策委員会の構成メンバー（2023年現在）

区 分	NO.	所 属
関係団体	1	久留米市老人クラブ連合会
	2	久留米市防犯協会連合会
	3	うきは防犯協会田主丸支部
	4	久留米市校区暴力追放推進協議会連絡会議
	5	久留米市校区まちづくり連絡協議会
	6	久留米男女平等推進ネットワーク
	7	久留米市中学校長会
	8	久留米市小学校長会
	9	久留米市小・中学校PTA連合協議会
	10	久留米市校青少年育成協議会連絡会議

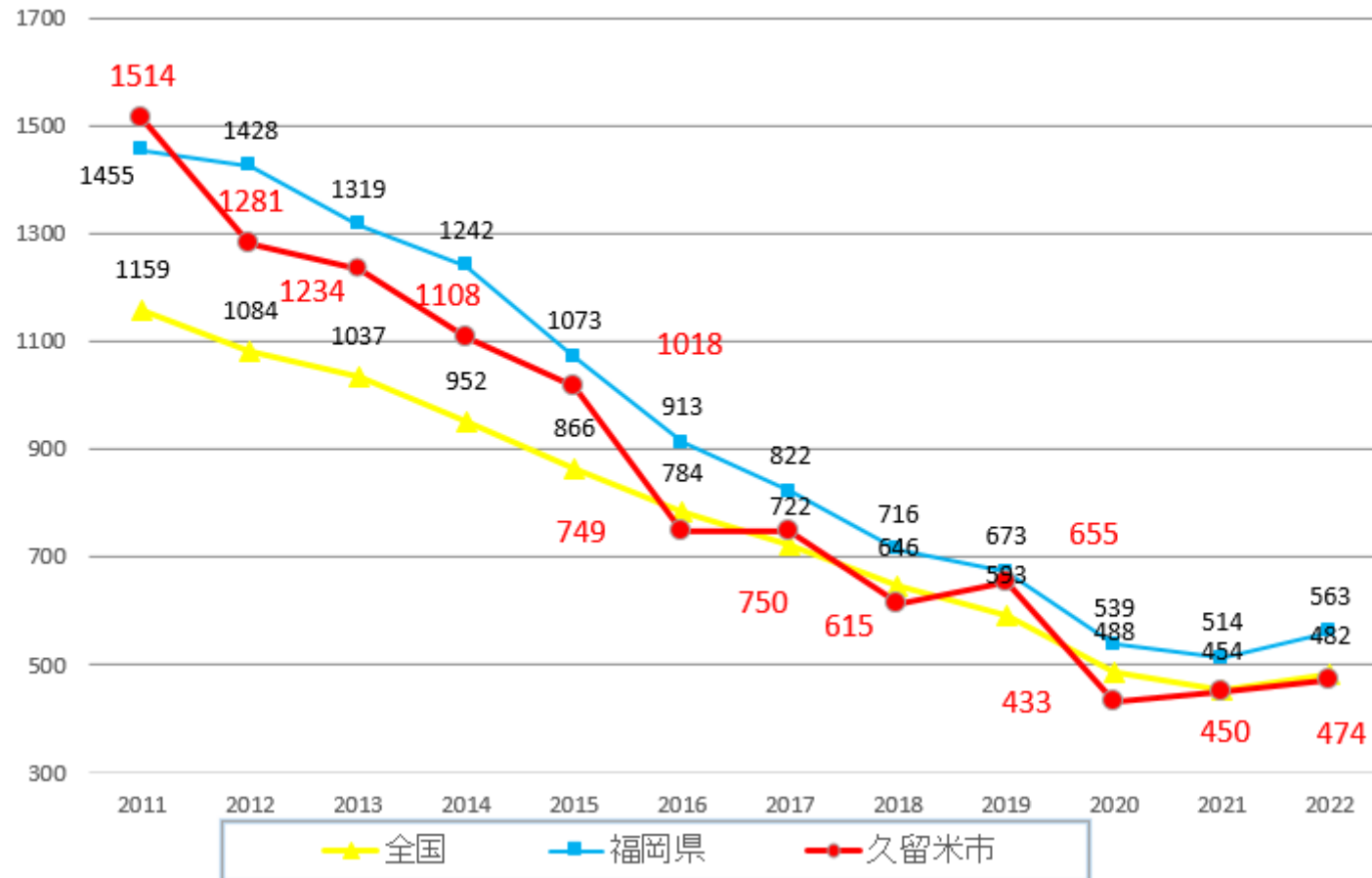
区 分	NO.	所 属
関係団体	11	久留米市商工会議所女性会
	12	文化街さくら会
	13	（一社）久留米銀行協会
警察	14	久留米警察署（生活安全課）
行政機関	15	久留米市子ども未来部青少年育成課
	16	久留米市都市建設部道路整備課
	17	久留米市教育部学校教育課
	18	久留米市協働推進部安全安心推進課
	19	久留米市協働推進部男女平等推進センター
	20	久留米市協働推進部消費生活センター

＜委員構成の見直し＞ 久留米市老人クラブ連合会を追加（2016年）
（一社）久留米銀行協会を追加（2022年）

3-1.データに基づく課題 「一般刑法犯」は減少傾向。国・県の水準を下回る傾向

【図3】一般刑法犯認知件数の比較(10万人あたり)

<出展:警察統計>



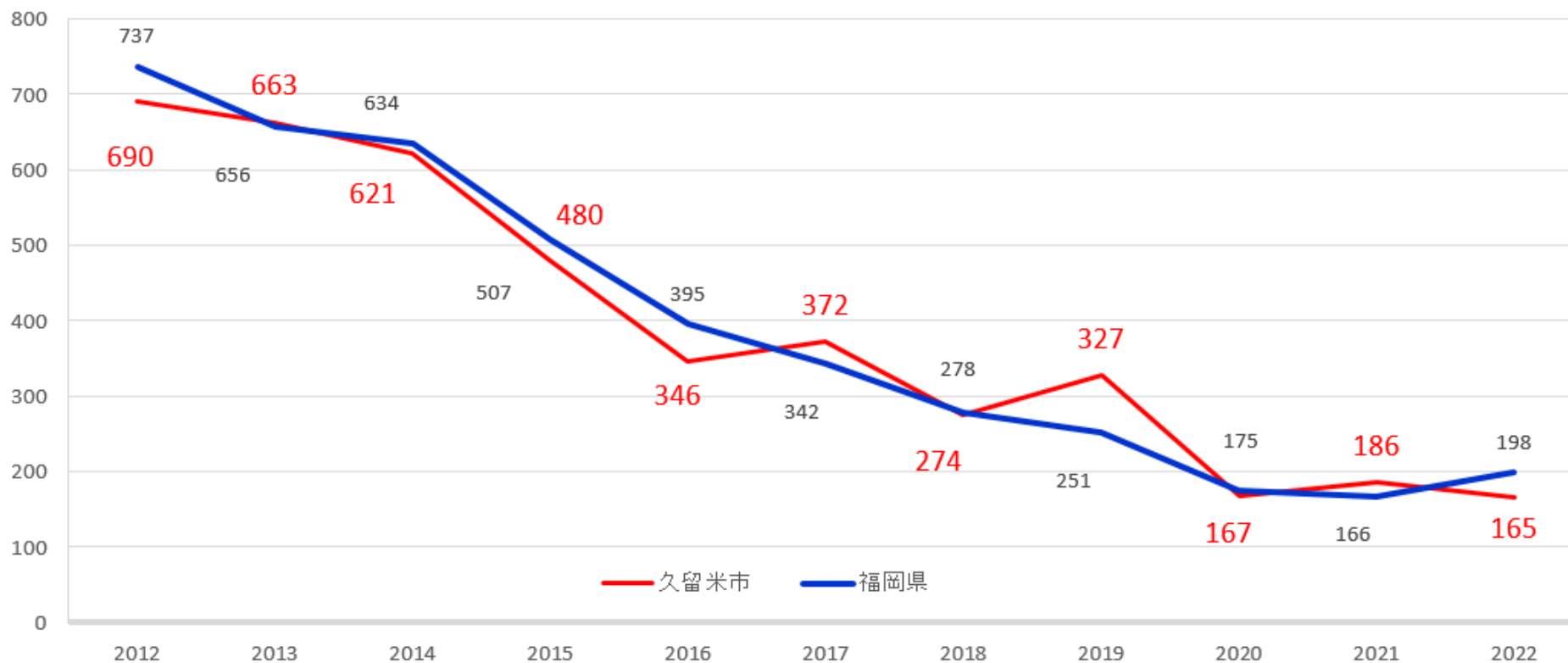
3-1.データに基づく課題

「街頭犯罪」は減少傾向。近年の傾向は、『下げ止まり』

※2

＜出展：警察統計＞

【図4】街頭犯罪認知件数の比較（10万人あたり）

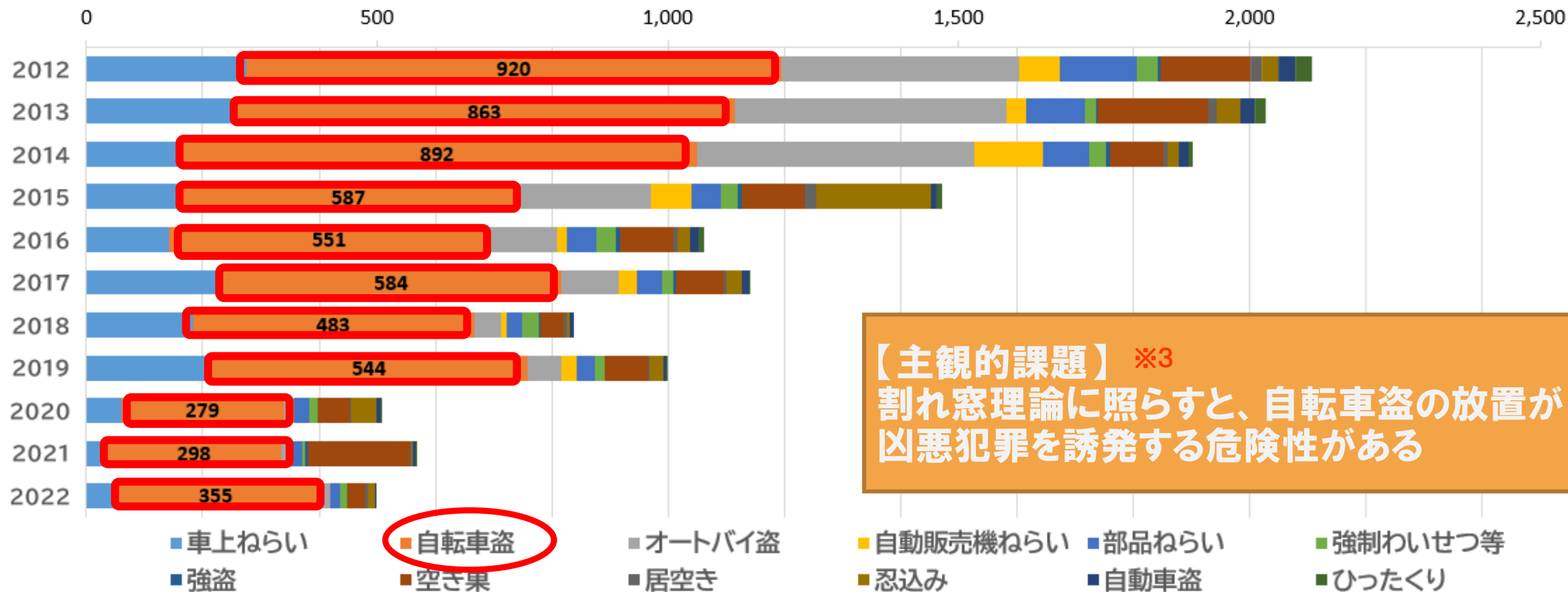


3-2.データに基づく課題

街頭犯罪の中では「自転車盗」が最も多い

<出展:警察統計>

【図5】街頭犯罪認知件数 ※2



【主観的課題】 ※3

割れ窓理論に照らすと、自転車盗の放置が凶悪犯罪を誘発する危険性がある

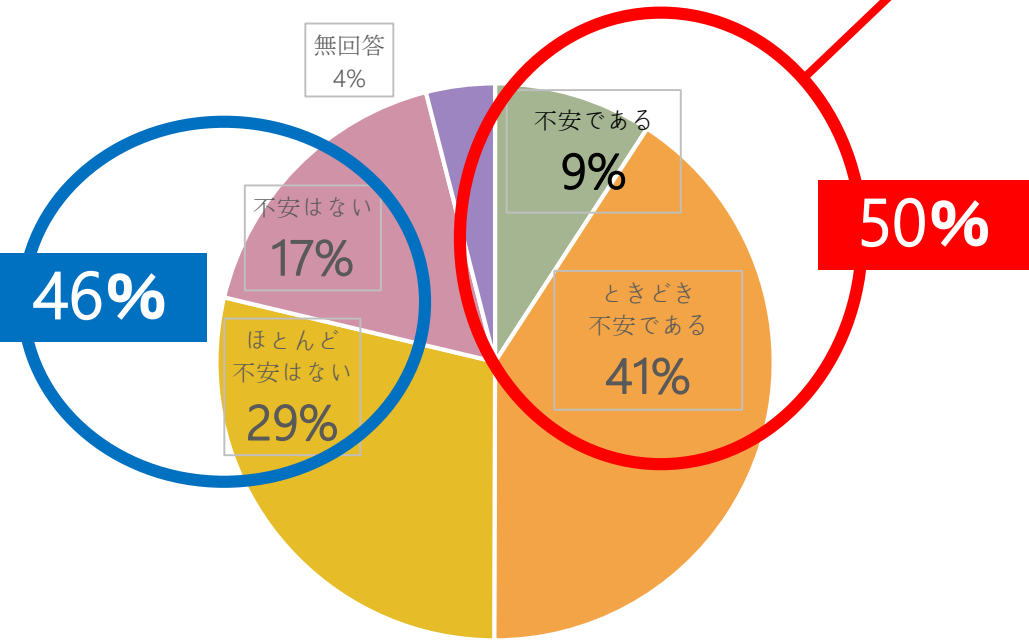
3-3.データに基づく課題

犯罪への不安を感じる人が、不安を感じない人を上回っている

< 出展：セーフコミュニティ実態調査 >

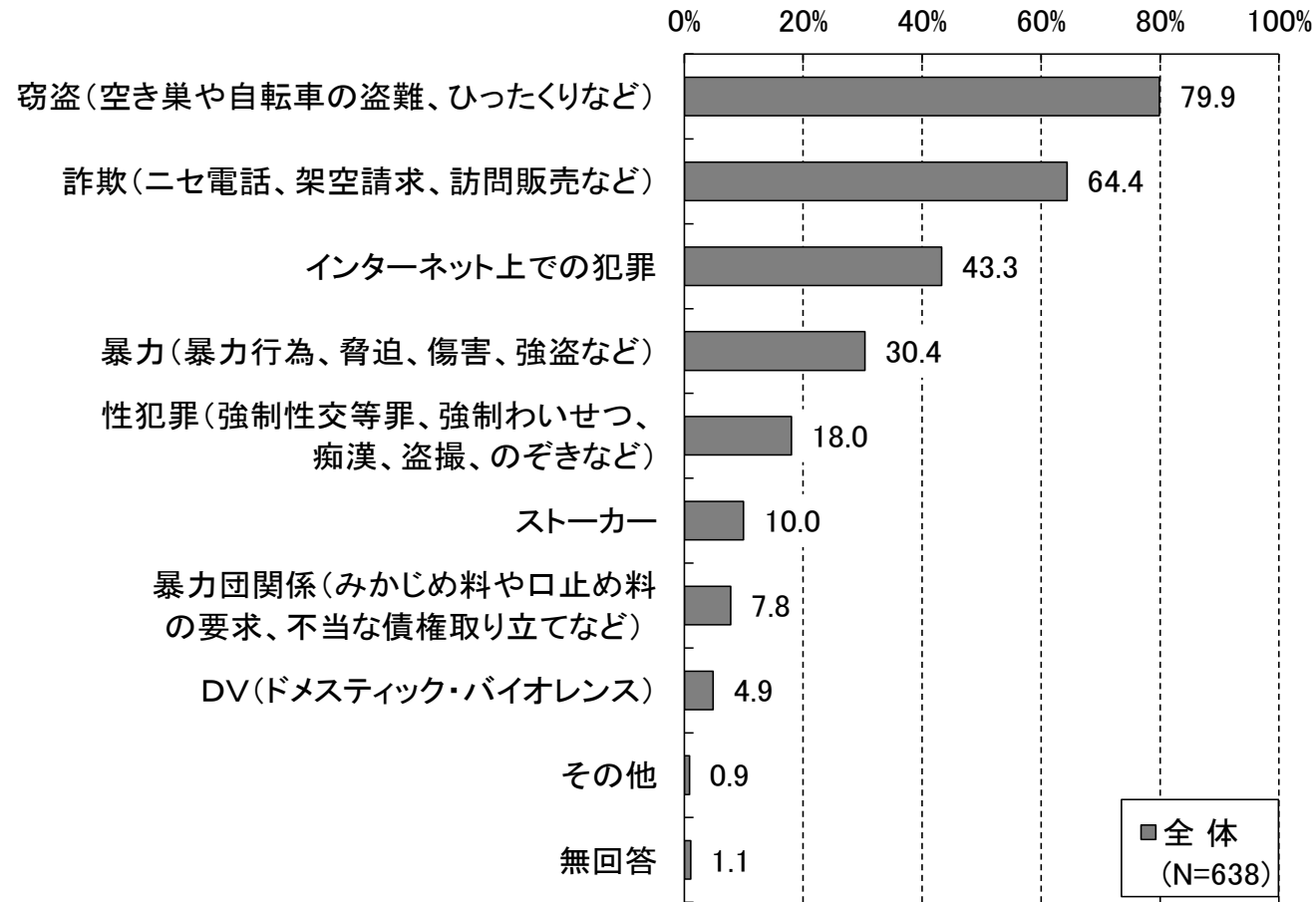
問：あなたは、生活の中で犯罪の被害にあうかもしれないという不安はありますか。

【図 6】 犯罪被害の不安



問：あなたが不安に感じる犯罪は何ですか。

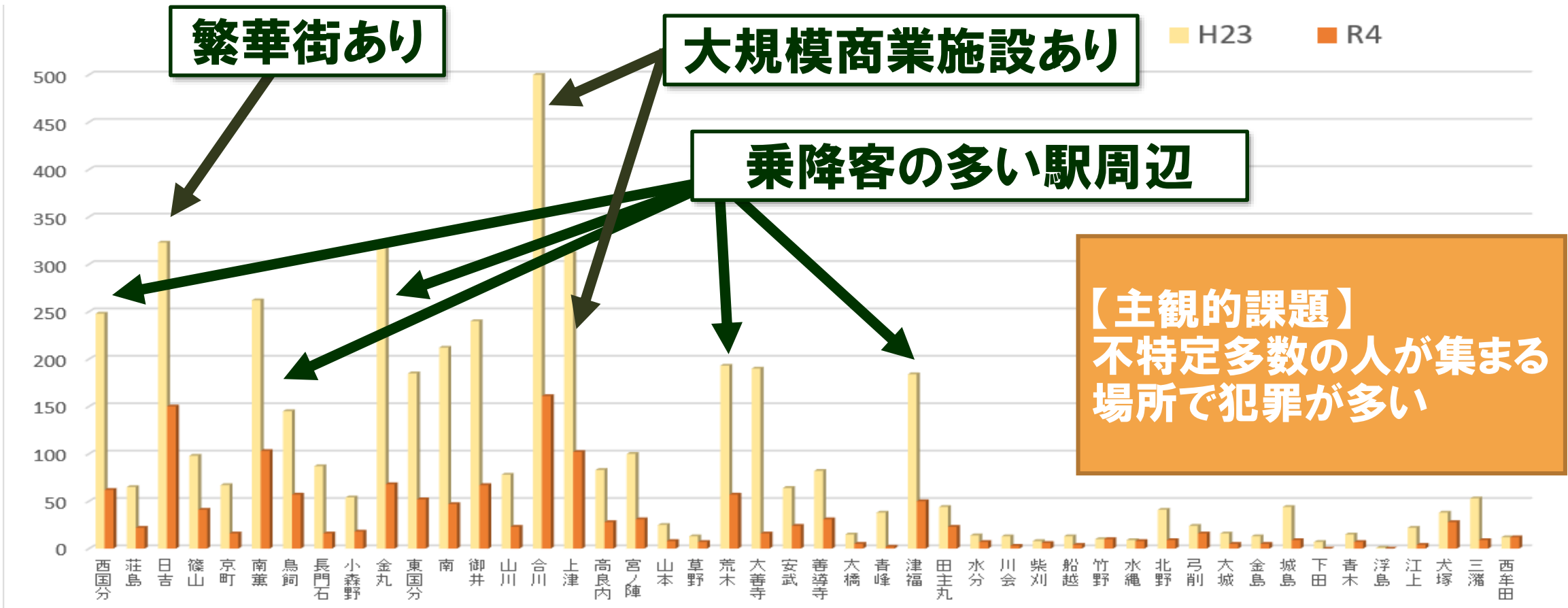
【図7】



3-4.データに基づく課題

大型商業施設や乗降客の多い駅、繁華街周辺で犯罪(窃盗が約7割)が多く発生している

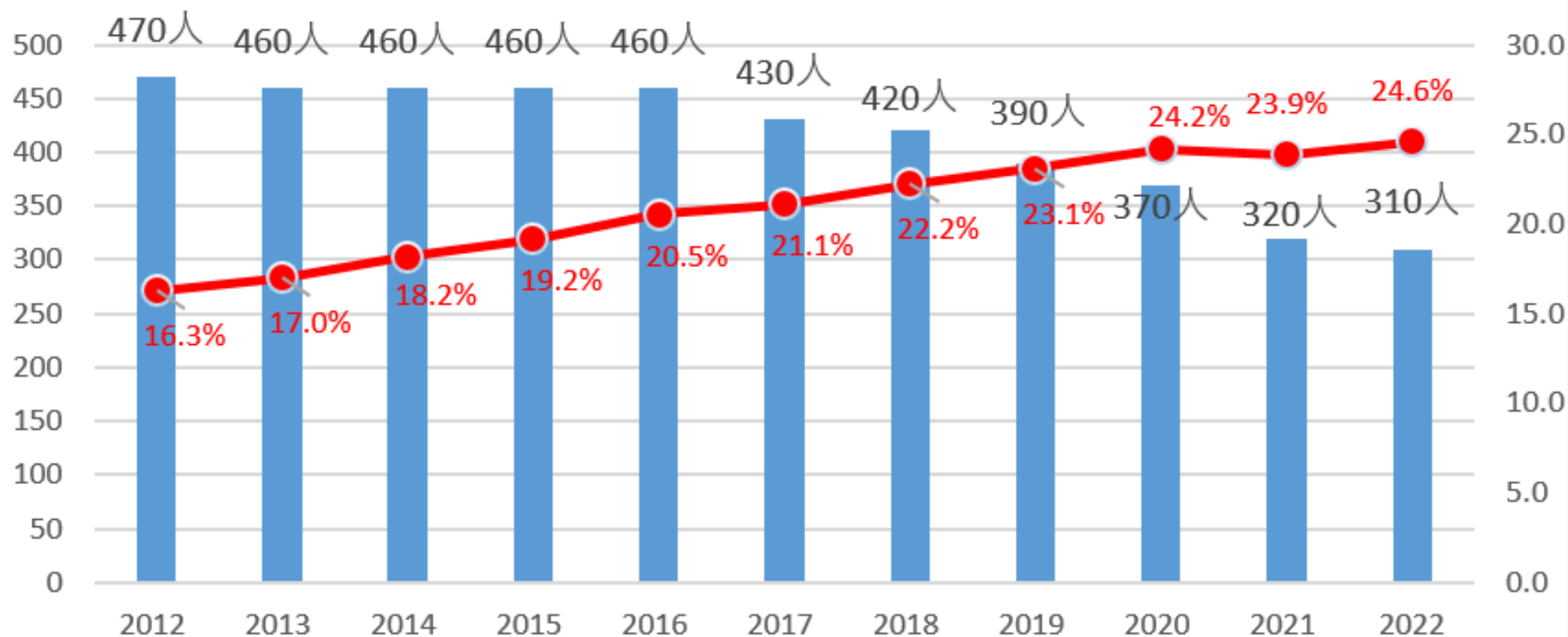
【図8】 校区别一般刑法犯罪種別認知件数 <出展:警察統計>



3-5.データに基づく課題

※4
市内に本拠を置く指定暴力団の構成員数は減少傾向にあるが、**県内に占める割合は増加**

【図9】 県内に占める市内の指定暴力団構成員数の割合



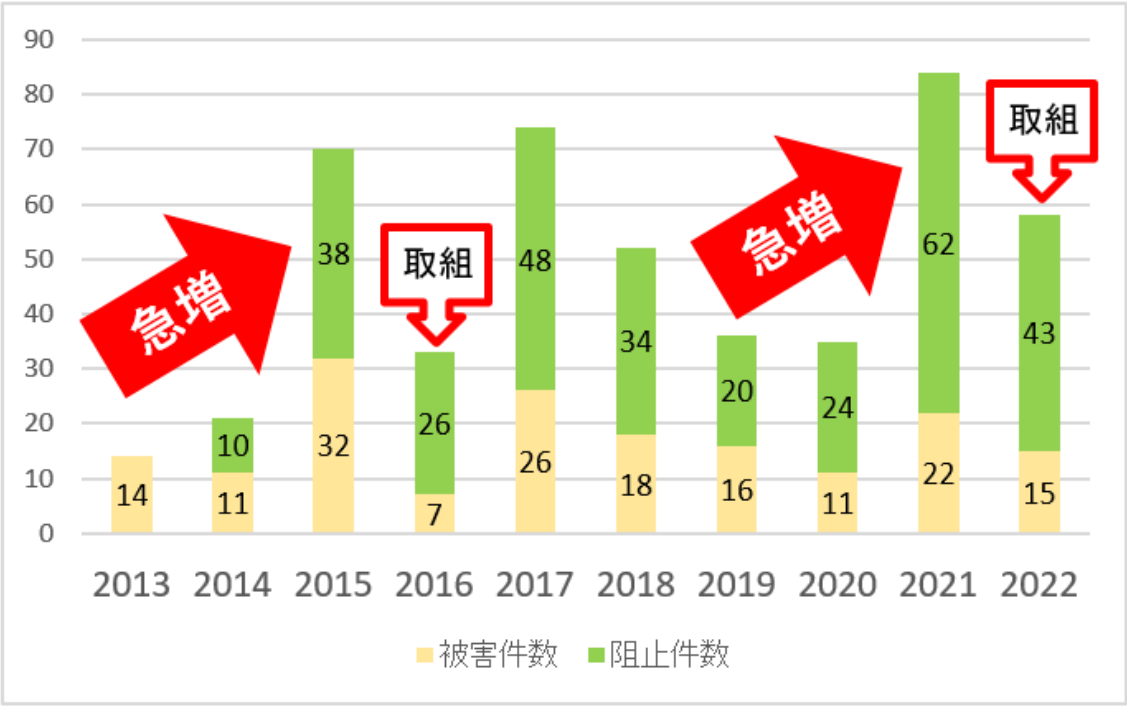
<出展:警察統計>

3-6.データに基づく課題

主に高齢者を狙った二セ電話詐欺の被害が急激に増加
※5

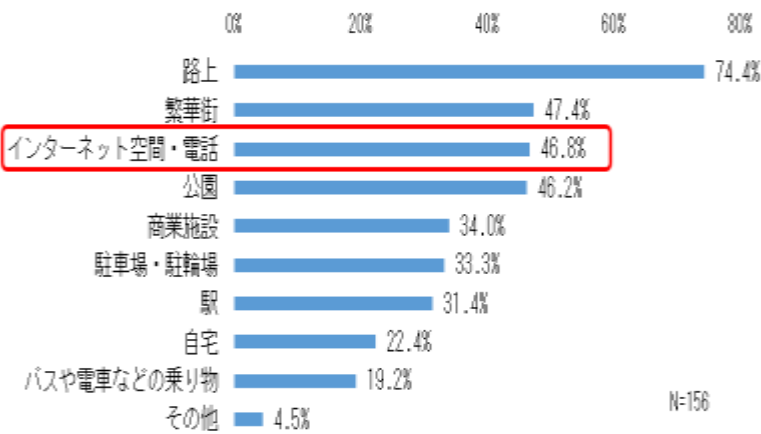
【図10-1】市内 ニセ電話詐欺の被害及び阻止件数

<出展：警察統計>



【図11】犯罪に巻き込まれるかもしれないと思う場所

<出展：市政アンケートモニター>



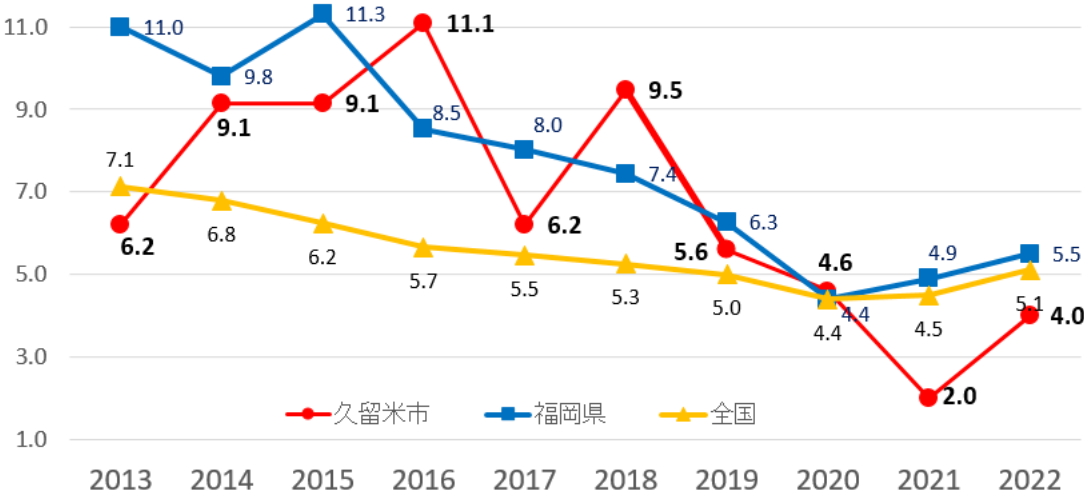
【図10-2】久留米市と福岡県の二セ電話詐欺被害状況の比較

		2021年	2022年
福岡県	認知件数	329件	368件
	被害額	7億6,460万円	9億2,283万円
久留米市	認知件数	22件	15件
	被害額	3,418万円	2,934万円

3-7.データに基づく課題

性犯罪認知件数は増減を繰り返している
「性犯罪」を不安に感じる女性が多い

【図12】 性犯罪認知件数（10万人あたり）

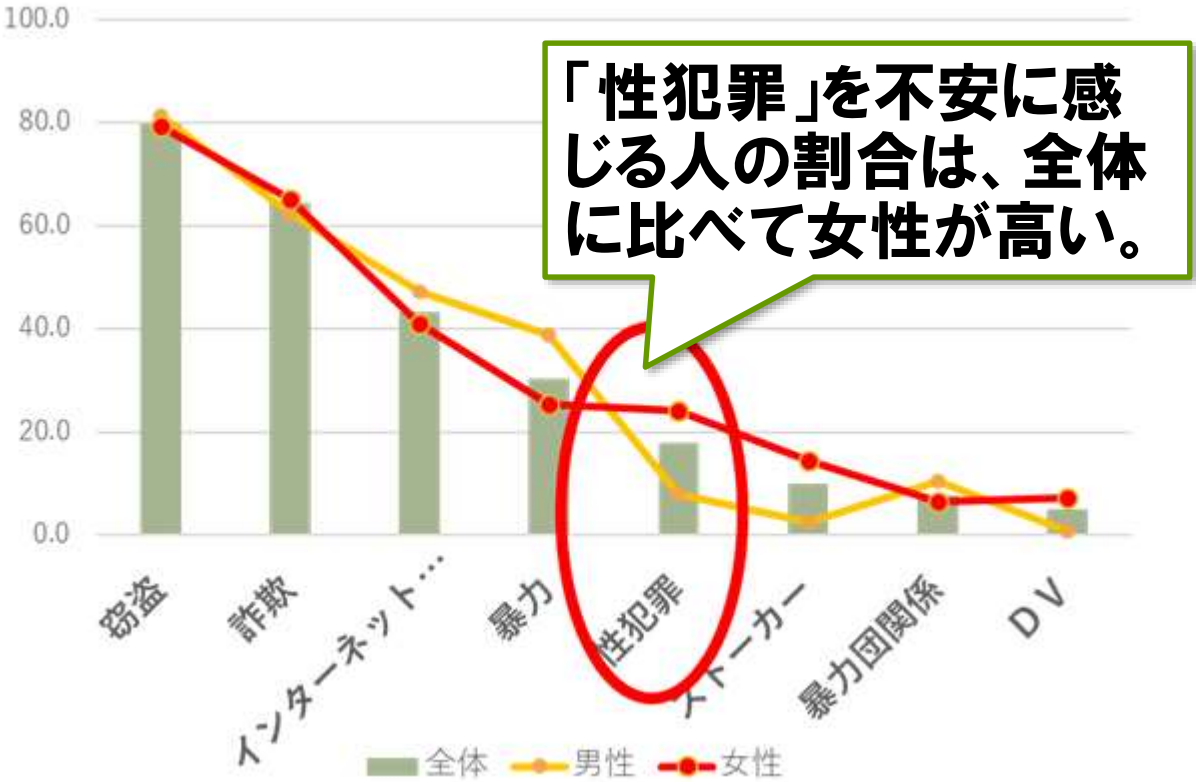


<出展：警察統計>

【図13】 福岡県性犯罪発生率全国順位

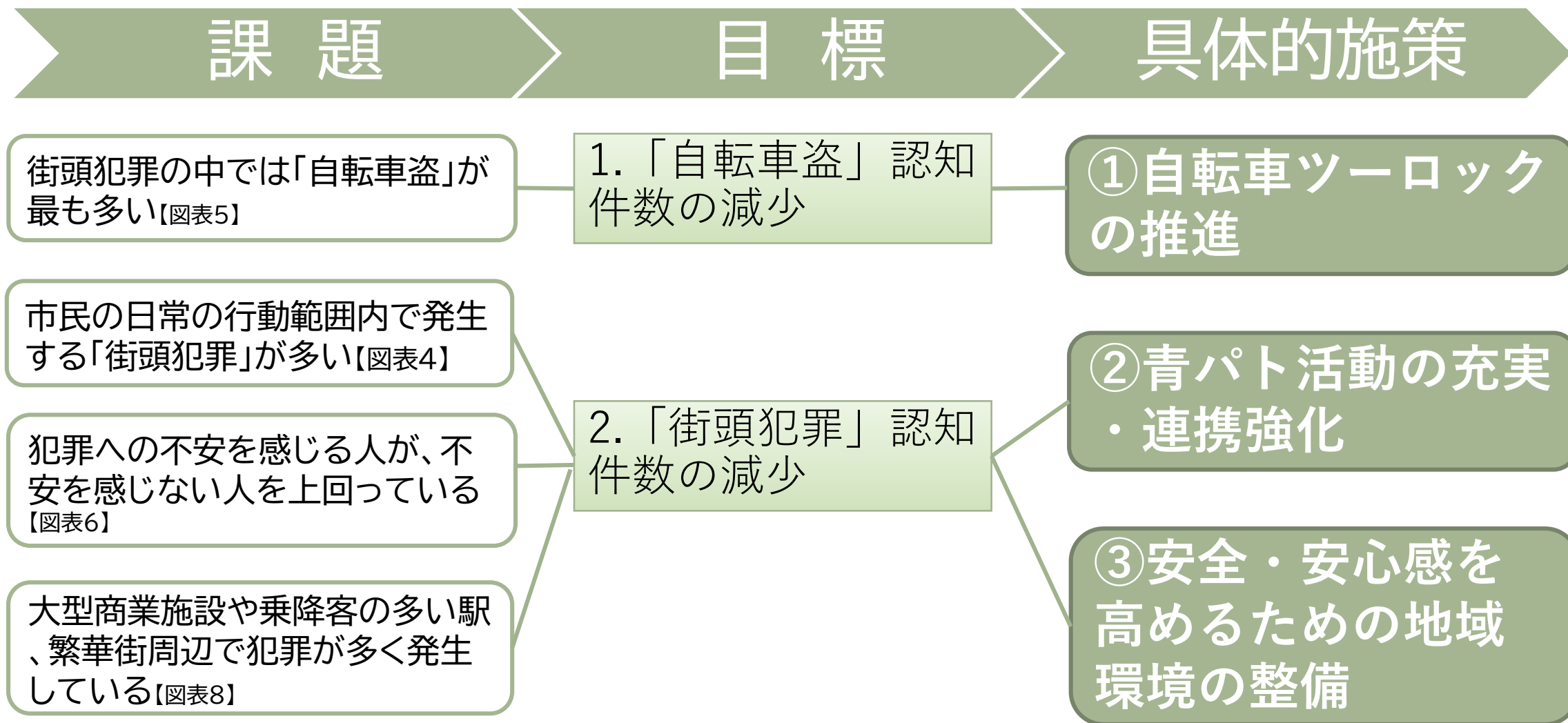
2018	2019	2020	2021	2022
第 2 位	第 5 位	第 8 位	第 7 位	第8位

【図14】 不安に感じる犯罪

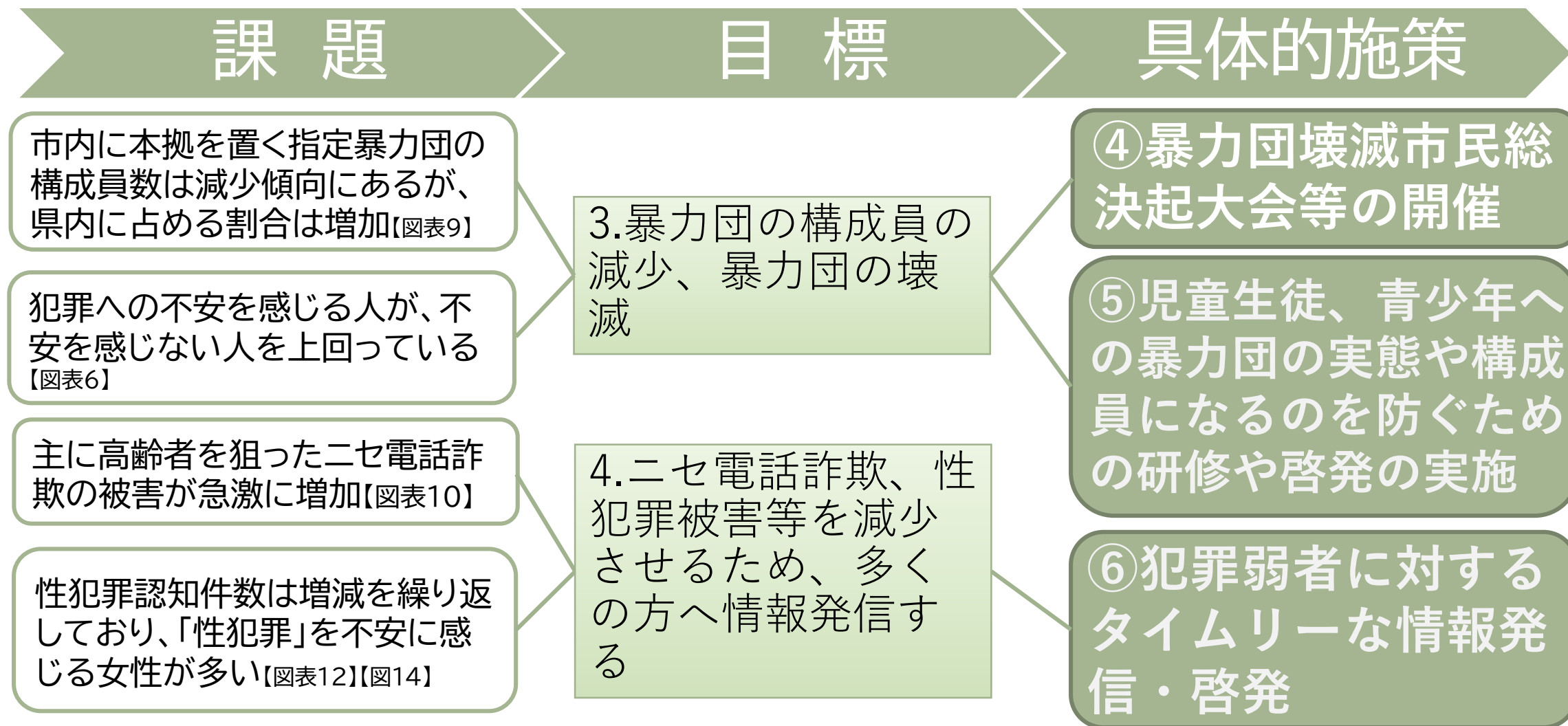


<出展：セーフコミュニティ実態調査>

4-1. 課題解決のための目標と具体的施策



4-2. 課題解決のための目標と取組



5-1. レベル別の対策

目 標	対 策			
	分類	国県レベル	市レベル	地域レベル
1.「自転車盗」認知件数の減少	教育・啓発		街頭キャンペーン、出前講座等	地域にける注意喚起、ツーロックの実践
			取組① 街頭キャンペーン、啓発	
	規制	各種法令による規制	法や制度の周知	制度の理解、法令順守
	環境整備		自転車駐輪場の整備等	青パト導入 補助制度の活用による環境整備等
2.「街頭犯罪」認知件数の減少	教育・啓発		出前講座等	自主防犯活動への参加
			取組② 青パト活動への参加	
	規制	各種法令による規制	法や制度の周知	制度の理解、法令順守
	環境整備		地域防犯団体への支援等 防犯カメラ設置、地域への支援等	青パト導入 補助制度の活用による環境整備等
			取組③ 防犯カメラ、防犯灯の設置	

5-2. レベル別の対策

目 標	対 策			
	分類	国県レベル	市レベル	地域レベル
3.暴力団の構成員の減少、暴力団の壊滅	教育・啓発	暴排先生（県警）等	出前講座等	暴力団壊滅、排除運動の実践
	規制	暴対法、県条例による規制	法や制度の周知	取組④⑤ 暴追大会への参加、啓発 暴力団排除の取組 制度の理解、法令順守
	環境整備			
4.二セ電話詐欺、性犯罪被害等を減少させるため、多くの方へ情報発信する	教育・啓発		街頭キャンペーン、出前講座等	地域における注意喚起
	規制	各種法令による規制	法や制度の周知	取組⑥ 情報発信、啓発 制度の理解、法令順守
	環境整備			青パト導入 補助制度の活用による環境整備等

6-1. 具体的施策の紹介・成果

取組① 自転車ツーロックの推進



学生ボランティアや自転車商組合等も参加
交通安全対策委員会とも連携して実施

中高生や高齢者の移動手段
として自転車の利用が多い



街頭キャンペーンなどにより、
ツーロックの安全性等を周知
自転車利用者に実践を促す



取組① 自転車ツーロックの推進

指標	指標内容	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
活動	駐輪場や商業施設などでの啓発活動回数	18回	5回	2回	2回	2回
短期	ツーロックの実践状況【アンケート】	32.6%	28.9%	未実施	未実施	28.0%
中期	久留米市は治安が良いと思う人の割合【市政アンケートモニター】	74.8%	75.2%	未実施	75.8%	80.3%
長期	自転車盗の認知件数【警察統計】	483件	544件	279件	298件	355件

6-2. 具体的施策の紹介・成果

取組② 青パト活動の充実・連携強化

2004年から推進してきた、
青パトによる防犯パトロールが
現在は市内全域で実施！



地域を見守る青パト



青パト

※6

取組② 青パト活動の充実・連携強化

指標	指標内容	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
活動	青パト活動を行う校区数	41校区	44校区	45校区	45校区	45校区
短期	地域の防犯活動に参加したいと思う人【アンケート】	53.3%	49.2%	未実施	45.4%	46.7%
中期	防犯パトロールの連携団体数	47団体	51団体	52団体	52団体	52団体
長期	街頭犯罪の認知件数【警察統計】	838件	999件	508件	567件	498件

6-3. 具体的施策の紹介・成果

取組③ 安全・安心感を高めるための地域環境の整備



街頭防犯カメラ

地域や団体、関係機関が連携
それぞれの役割に応じた環境整備で
危険因子を取り除く



防犯灯

取組③ 安全・安心感を高めるための地域環境の整備

指標	指標内容	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
活動	①防犯灯設置費補助件数 (市補助事業)	1,558件	1,402件	1,035件	798件	762件
活動	②街頭防犯カメラ設置 補助台数 (市補助事業)	17台	17台	14台	10台	13台
短期	この2～3年で治安が良くなったと思う人の割合 【アンケート】	40.8%	45.1%	未実施	42.8%	41.2%
中期	久留米市は治安が良いと思う人の割合【アンケート】	74.8%	75.2%	未実施	75.8%	80.3%
長期	街頭犯罪の認知件数 【警察統計】	838件	999件	508件	567件	498件

6-4. 具体的施策の紹介・成果

取組④ 暴力団壊滅久留米市民総決起大会等の開催

暴力団壊滅市民総決起大会
毎年6月開催 約1,500人参加



地域社会全体で暴力団の壊滅を目指す
小学校区単位での活動など、日常生活に
根付いた根気強い活動を展開

総決起大会及びパレード
毎年12月開催 約2,000人参加



校区での暴追大会、パレード



取組④ 暴力団壊滅市民総決起大会等の開催

指標	指標内容		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
活動	開催数		2回	2回	1回	1回	2回
短期	参加者数	6月開催	1,500人	1,500人	0人	0人	1,500人
		12月開催	2,000人	2,000人	31人	160人	2,000人
中期	暴迫の取り組みを行なっている校区数		42校区	42校区	41校区	41校区	43校区
長期	市内の暴力団の構成員数		420人	390人	370人	320人	310人

6-5. 具体的施策の紹介・成果

取組⑤ 児童生徒、青少年への研修や啓発の実施



市内の学校と連携し、小学・中学・高校生へ暴力団関連の研修・啓発実施することで、暴力団構成員になるのを防ぎ、暴力団の弱体化を図る



取組⑤ 児童生徒、青少年への研修や啓発の実施

指標	指標内容	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
活動	防犯教育活動を行なった学校数	150校	109校	87校	110校	125校
短期	不良行為少年補導数	1,344人	1,299人	1,117人	1,119人	1,274人
中期	市内の刑法犯少年 検挙・補導数	94人	62人	56人	60人	69人
長期	市内の暴力団の構成員数	420人	390人	370人	320人	310人

6-6. 具体的施策の紹介・成果

取組⑥ 犯罪被害者に対するタイムリーな情報発信・啓発

出前講座や啓発チラシをはじめ、あらゆる機会を通じた情報発信被害に遭わないための行動を呼びかけ



取組⑥ 犯罪弱者に対するタイムリーな情報発信・啓発

指標	指標内容	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
活動	啓発活動・出前講座回数	87回	67回	9回	24回	26回
短期	この2～3年で治安が良くなったと思う人の割合【アンケート】	40.8%	45.1%	未実施	42.8%	41.2%
中期	久留米市は治安が良いと思う人の割合【アンケート】	74.8%	75.2%	未実施	75.8%	80.3%
長期	①二セ電話詐欺被害件数（阻止件数）【警察統計】	18件 (34件)	16件 (20件)	11件 (24件)	22件 (62件)	15件 (43件)
長期	②性犯罪認知件数【警察統計】	29件	17件	14件	6件	12件

7. コロナ禍の工夫

SNS等を活用した新たな啓発活動

- ・啓発動画を作成し、YouTubeやLINEに投稿し、広く啓発
- ・啓発動画を市内各所のモニターで放映



二セ電話詐欺の対策強化

- ・コロナ禍での在宅時間の増加を背景に急増している二セ電話詐欺対策として、警察や校区まちづくり連絡協議会、民生委員児童委員協議会等と連携し、実施。

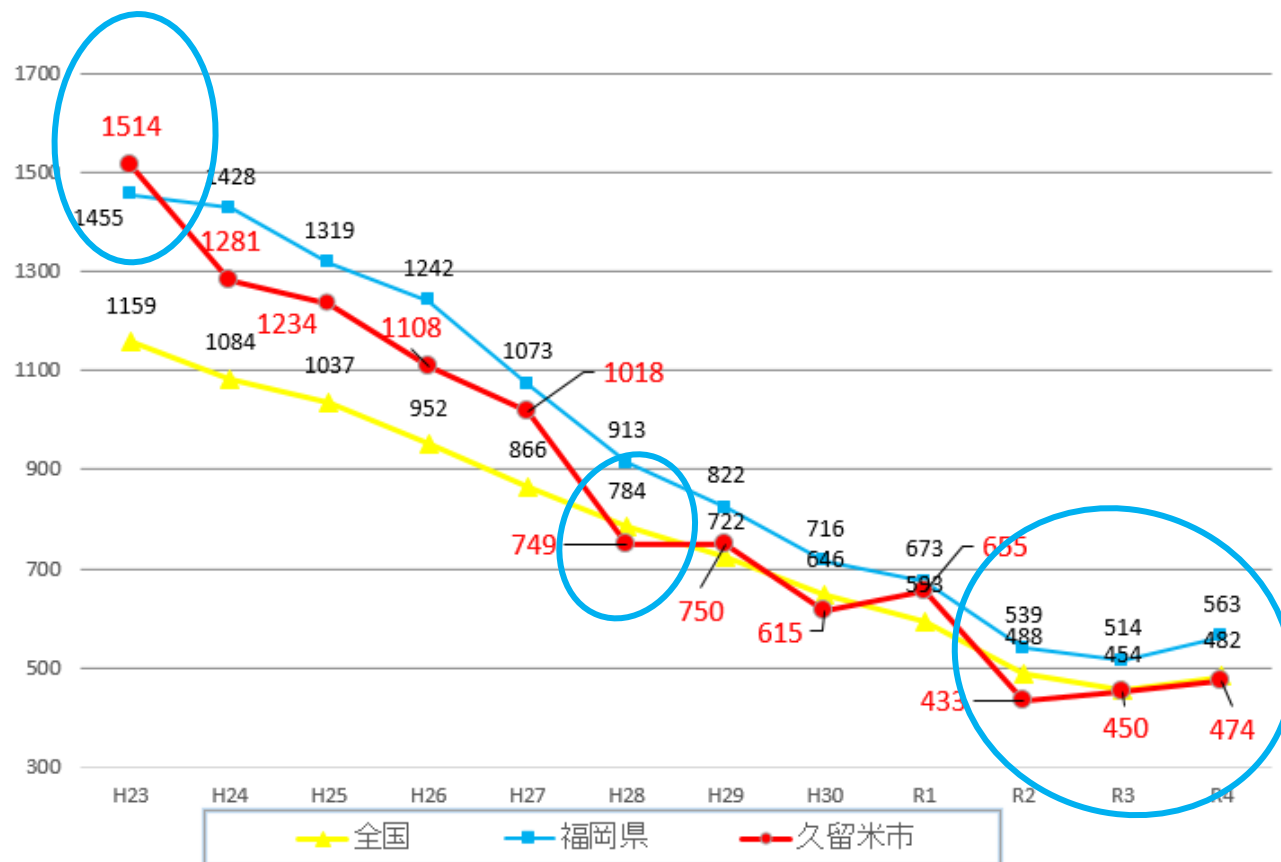
青パトを活用した注意喚起

日常的な訪問での声掛け

8-1. 取り組みによる全体的な成果

(件)

【図3】一般刑法犯認知件数の比較(10万人あたり)



<出展:警察統計>

一般刑法犯認知件数は減少！
2011年(取り組み開始時)の約30%
国・県より減少率が高い！

2012年 県の水準以下に

2016年 国の水準以下に

2020年以降 国・県の
水準以下をキープ

市内の内訳を見ると…

街頭犯罪認知件数も減少！
2011年の約20%

自転車盗の認知件数も減少！
2011年の約30%

8-2. 取り組みによる全体的な成果

全国暴力追放 功労団体表彰受賞

「暴力団壊滅市民総決起大会」などの
地域社会が一体となった、継続的な暴
追活動が評価。



9. 再認証取得後の変化・気付き

防犯活動の充実

1. 青パトによる防犯パトロールが市内全域で実施される
2. 交通安全分野、学校の安全分野、高齢者のとの連携強化
3. 防犯カメラ、防犯灯の設置の拡大
4. 自主防犯活動団体の活動開始
5. 住民活動による暴力団事務所の撤去

防犯活動の支援の拡がり

1. 企業から青パトの寄贈
2. 企業から車両用の安全警報装置の寄贈を受け、青パトに設置
3. NPO法人から学校防犯システム「ツイタもん」の設置支援



10. 課題・今後の対応

市民参加の拡大

防犯活動 実践者・参加者の固定化・高齢化

➡ **気軽に参加できる仕組みの工夫が必要**

情報発信の工夫

一般刑法犯の認知件数は減少しているが、犯罪に対する不安感は変わらない

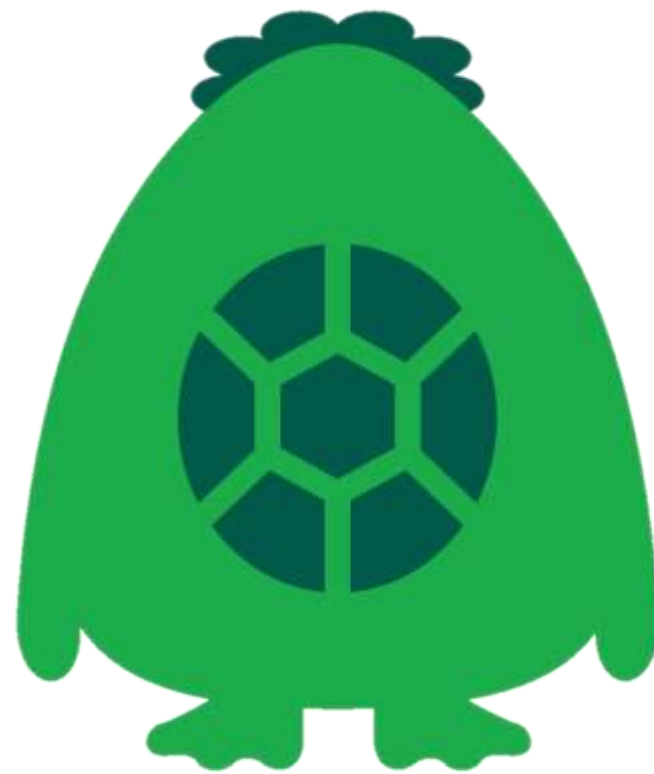
➡ **防犯の取組やその成果について、広く市民に周知する必要がある**

高齢者は、ニセ電話詐欺など、巧妙化する新たな犯罪への不安感が高い

➡ **今後もタイムリーな情報発信を継続する必要がある**



ご清聴ありがとうございました。



防犯対策委員会

用語集

※1 一般刑法犯

刑法犯（刑法及び暴力行為等処罰法、組織犯罪処罰法などの法律に規定される犯罪）全体から自動車運転過失致死傷罪など、交通関係の業過（交通事故によって人を死傷させた過失犯）を除いたもの。

※2 街頭犯罪

一般刑法犯のなかで、身のまわりで発生しやすい10の犯罪の総称

- ・自転車盗
- ・オートバイ盗
- ・自動車盗
- ・侵入盗
- ・車上狙い
- ・部品狙い
- ・自販機狙い
- ・路上強盗
- ・ひったくり
- ・強制わいせつ

用語集

※3 割れ窓理論

「1枚の割れたガラスを放置すると、たちまち街全体が荒れ、犯罪が増加」
軽微な犯罪も徹底的に取り締まることで、凶悪犯罪を含めた犯罪を
抑止できるとする、犯罪理論。

※4 暴力団

暴力あるいは暴力的脅迫によって自己の私的な目的を達しようとする
反社会的集団。
なかでも、一定の要件を備えた反社会性の強い団体:「指定暴力団」

用語集

※5 ニセ電話詐欺

面識のない不特定多数の者に対し、電話やメールなどの通信手段により対面することなく、被害者から現金をだまし取る詐欺。

4種類の「振り込め詐欺」のほか、それに類似する多くの手口が存在する。

【振り込め詐欺】

- **オレオレ詐欺**

親族や警察官等を装い、金銭借用や被害防止のためと称して、銀行口座に振り込ませるもの。
最近では、被害者と対面して、現金やキャッシュカードなどを受け取る手口も見られる。

- **還付金詐欺**

税金や医療費などの還付を装うもの。

- **架空請求詐欺**

郵便や電子メールなどにより、架空の事実を口実とした料金請求文書を送付するもの。

- **融資保証金詐欺**

実際に融資する意思がないにもかかわらず、融資する旨の文書等を送付して、保証金等の名目で現金を振り込ませるもの。

用語集

※6 青パト

青色の回転灯を装備したパトロール車。
主に地域のボランティアを中心とした自主防犯団体により運行される。
一般車両への回転灯装備は法令で禁止されているが、全国の犯罪認知件数が2002年・2003年に戦後最多となり、自主防犯パトロールの機運が高まったことから、2004年に規制が緩和され、警察から適正にパトロールを行うことができると証明を受けた団体については、青色の回転灯を装備した公道走行が可能になった。
夜間の地域巡回や登下校時における子どもの見守り、犯罪多発エリアの警戒など、地域の実情に応じたパトロールに活用されている。